

R6年産大麦情報 第1号

令和5年9月19日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

大麦栽培スタートまでの3大ポイント

目標単収：500kg/10a

大麦はスタートダッシュが重要!!
苗立ちと初期生育の確保に努め、
品質向上と増収を目指しましょう!

麦は湿害・滞水を嫌います。
排水の徹底、乾きやすいほ場づくりに
努めましょう。

- ① 湿害回避・排水対策
- ② pH 矯正と適正な施肥
- ③ 適切な播種作業・・・播種適期は10月中旬

圃場の準備

排水性を高めることで、碎土率が向上し、
出芽・苗立ちや除草剤の効果が高まります。

● 排水対策の徹底

・ 額縁排水溝の設置

周辺の水田や用水からの漏水による湿害を防止するため、額縁排水溝を設置し、圃場を乾かし、碎土率を高める。

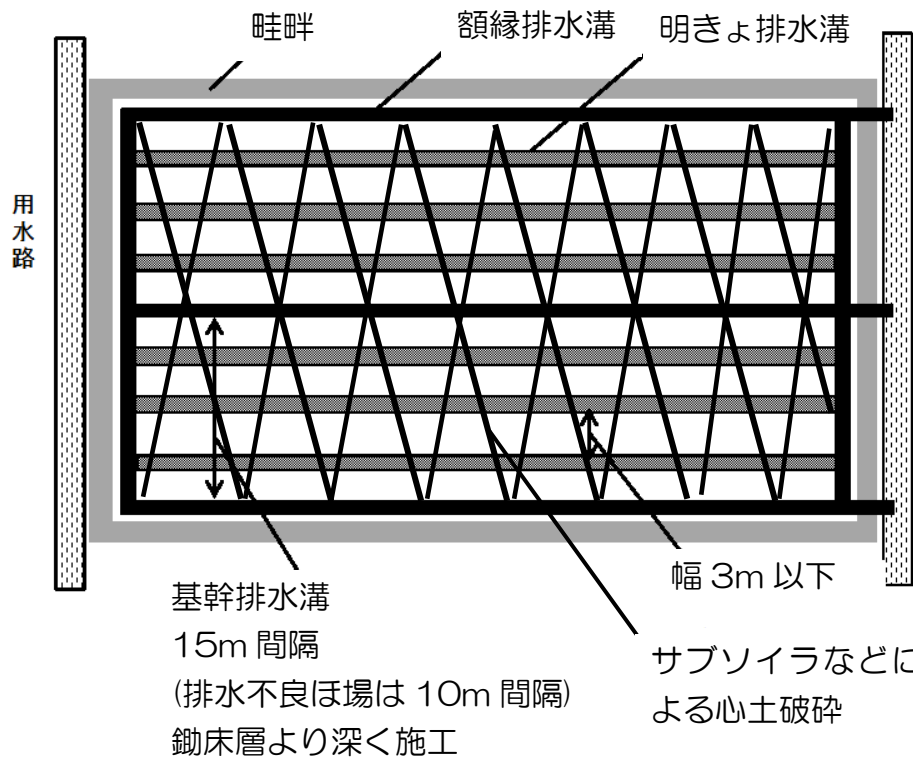
・ 明きよの設置

圃場内は、縦方向に数本（3m～5m間隔）、排水溝を入れて、額縁排水溝に連結させ、排水を良くする。（排水の悪い圃場では3m以下が望ましい）

・ 暗きよ（サブソイラ）の実施

圃場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラによる心土破碎を行う。

稲刈りの合間をみて、晴れが続いている間に設置しましょう。
土壌の水分がぬける乾きやすいほ場を作りましょう。



幅3m以内の排水溝の設置（は種時）



トレンチャーによる額縁排水溝の設置

播種・施肥

● 土壤改良資材の散布

大麦は中性（pH6～6.5）の土壌が適するので、耕起前に「粒状苦土石灰」、
「BB新転作エース」、「カキ鉄エース」のいずれかを施用し、大麦に適した土壌とする。
※水稲作付後の土壌pHは5.5程度まで低下

項目	肥料名	施用時期	施用量(kg/10a)
pH 矯正	粒状苦土石灰またはカキ鉄エース	耕起前	100
	BB新転作エース		80

● 種子消毒・・・対象病害：裸黒穂病

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
ベンレートTコート	乾燥種子量の0.5%粉衣 (7kg当たり35g)	は種前	1回

● 播種時期と播種量

播種時期：10月10～20日 ※但し、播種作業は土壌条件を優先すること。

播種量：7kg/10a ※適期に遅れる場合は1kg程度増やすこと。

播種方法	条間	播種深さ	播種量	畦幅
条播	25～30cm	3cm	7kg/10a	3～5m (水はけの悪い圃場は3m以下)

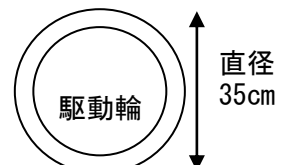
※播種前の耕起作業

碎土率が劣ると出芽・苗立ちや除草効果が低下するので、**トラクターは低速走行・ロータリー回転数を上げて作業すること。**

※播種機（ドリル播種）の播種量の調整

播種量	条間	1m当たりの種子繰り出し量
7kg/10a	30cm	2.1g
	28cm	2.0g
	26cm	1.8g

※種子量2.1gは、約60粒となります。



直径：35cmの場合
0.35 × 3.14 × 5 回転 = 5.50m
落下種子量 ÷ 5.50m = 1m当たり種子

- ・ 播種機を少し持ち上げ、落下部に皿などをあてて駆動輪を5回程度、回転させる。
- ・ 駆動輪の直径を測り、円周率（3.14）と回転させた数をかけあわせて駆動距離を算出する。
- ・ 落下した種子量を、駆動距離で割れば、1m当たりの播種量が求められる。
- ・ 作業時は駆動輪のスリップ等による誤差があるので、種子の消費量を見て修正する。

裏面もご覧ください

●基肥（基肥一発肥料体系）

肥料名	施用時期	施用量	備考
BB大麦一発N35 (35-5-4)	播種時	40kg/10a (N:14kg/10a)	地力の低い圃場での増肥は、 43kg/10a (N:15kg/10a) を 上限とする。

除草剤散布

剤型	薬剤名	使用時期	使用量 (10a当たり)	希釈 水量	対象雑草
粒	トレファノサイド 粒剤2.5	播種後出芽前～ 3葉期 (雑草発生前～ 雑草発生始期)	4～5 kg	—	一年生雑草 (7ﾌﾟﾗﾝｸ科等は除く) 一年生イネ科雑草
液	トレファノサイド乳剤		200～300 ml	100 ㍓	
粒	クリアターン細粒剤F	播種直後 (雑草発生前)	4～5 kg	—	一年生雑草 (雑草発生前)
液	クリアターン乳剤		500～700 ml	70～100 ㍓	
粒	リベレーターG	播種後～ 麦2葉期まで	4～5 kg	—	一年生雑草 (雑草発生前～ イネ科雑草 1葉期まで)
液	リベレーター フロアブル	播種後～ 麦3葉期まで	60～80 ml	100 ㍓	

- ・除草効果を高めるため、耕起時の碎土はできるだけ細かくしておく。
- ・播種直後の土が湿った状態で散布すると効果が高い。
- ・土壌が極端に乾燥している場合、液剤散布では、希釈水量を多めにする。
- ・散布直後に雨が予想される場合は、薬害回避のため降雨後に散布する。

排水溝の補修

- ・播種作業で排水溝が埋まる場合が多いので、必ず排水溝の補修を行い、円滑に排水ができるようにしておく。

特に降雨後にチェックしましょう。



大麦栽培の作業の流れ

月	作業内容
9月	<p>麦作圃場の団地化の検討</p> <p>圃場の準備 稲収穫後の基幹排水溝の設置 額縁明渠、弾丸暗渠 酸度矯正(苦土石灰散布) 種子消毒</p>
10月	<p>播種期 耕起・碎土・播種・施肥 → 1日作業 除草剤散布、排水溝の補修</p>
11月	<p>[基肥一発体系] 排水溝の点検・補修(湿害の防止)</p>
12月	
1月	<p>生育停滞期</p>
2月	<p>融雪水排除 (越冬後追肥)</p>
3月	<p>幼穂形成期 (止葉展開期追肥)</p>
4月	<p>出穂期 赤かび病防除 1回目:出穂後3～5日 2回目:1回目の7日後 粉剤体系 トップジンM粉剤DL ワークアップ粉剤DL 液剤体系 トップジンMゾル ワークアップフロアブル</p>
5月	<p>登熟期 隣接水田、用水路からの浸水防止 排水溝の点検・補修(登熟期の湿害防止、刈取時の降雨対策)</p>
6月	<p>成熟期 収穫・乾燥・調製</p>